



笑顔 あいさつ 思いやり

～東小は、今年度開校49周年です～

狭山市立
入間川東小学校
学校便り 12月号
令和元年 11月 29日

TEL 04-2952-3118

〒350-1305 狭山市入間川 2-7-23

FAX 04-2952-3119

URL http://www.sayama-stm.ed.jp/e_higasi/index/

「3本脚の椅子」 ～人権週間に寄せて～

この「3本脚の椅子」とは、最近読んだ本で目にした言葉です。

その本「目の見えない人は世界をどう見ているのか」(伊藤亜紗 光文社新書)には、「見えないことと目をつぶることは全く違う」とありました。では、どう違うのか。

「もともと足が4本ある椅子から1本取ってしまったら、その椅子は傾いてしまいます。…中略…でも、そもそも3本の脚で立っている椅子もある。脚の配置を変えれば、3本でも立てるのです」(同書 p.30)

生まれつき視覚障害のある人は「3本脚の椅子」で、目をつぶった人は、「4本脚の1本を取った椅子」ということです。視覚障害者は、視覚以外の感覚を研ぎ澄ませて、この世界を把握している(3本脚でバランスを取っている)のだそうです。

この「3本脚の椅子」は、障害の有無ということばかりでなく、「他者」を理解するうえで、とても有意義な考え方ではないでしょうか。「相手は、自分と違うバランス(○本脚の椅子)で生きている」(だから)「同じものを見ていても、違った見方をしているかもしれない」「同じ言葉でも違った受け止め方をするかもしれない」と考えることは、コミュニケーションを丁寧に進めるうえで大切な心構えです。

未熟な発達段階にある児童は、この「自他の違い」に気づかず、気持ちのすれ違いからトラブルを起こすことが多いようです。(大人でも、でしょうか…)

「鈴と小鳥とそれからわたし みんなちがってみんないい」(金子みすゞ)の詩の素晴らしさは、この「自他の違い」を肯定的にとらえているところだなど、あらためて思っています。

PTA 家庭教育合同研修会より

11月23日(土)、入間川中学校で行われた合同研修会に出席しました。

埼玉県警サイバー犯罪対策課の鎌田雅子さんによる講演で、演題は「インターネットセキュリティ ～インターネット犯罪の被害にあわないために～」でした。

つい先日も、大阪で行方不明だった小学生が、SNSで誘いだされて監禁されていたという事件がありました。このようにSNSが起因となって犯罪に巻き込まれた例が、年間1800人を超えているそうです。(2017年：警視庁)「フィッシング」「なりすまし」などの悪意のサイトばかりでなく、LINEやTikTokなどのやり取りでのトラブルも後を絶たない状況です。

インターネットは、上手に使いえば学習や仕事にも役立ちますし娯楽も得られます。しかし、あちこちに危険が潜んでいて、使い方次第で人の人生を狂わせる元にもなります。時には、被害にあうだけでなく、相手を傷つける加害者になってしまうことだってあり得ます。

スマホやPC、通信機能付きのゲーム機などを買い与えたり使わせたりする場合は、お子さんとその危険性を十分に話し合い、使い方の約束を決めておくことが必要です。

大人の管理のもと、児童を犯罪から守り、安全なネット活用をさせましょう。

※ 詳しくは、下記サイトなどで御確認ください。

「警視庁：サイバー犯罪対策のホームページ」www.npa.go.jp/cyber/

「埼玉県警：サイバー犯罪」<https://www.police.pref.saitama.lg.jp/kurashi/cyber/index.html>

